

# プロジェクト進捗管理シート

方針3 「人」と「知」の基盤づくり

## 8 教育再生プロジェクト

～良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成～

総括マネージャー

教育長

### 目 標

子どもたち一人ひとりが、学力や体力、人間性などを身に付け、自らの人生を切り拓き、社会に貢献できる人材として育つとともに、県民誰もが生涯にわたる学びを通じて自己を磨き、豊かな人生を送ることができる教育県をめざします。

### 総 合 分 析

良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成をめざし、6つのアクションによりプロジェクトを推進しました。

達成目標の進捗状況は、12項目のうち、5項目は「順調」、7項目は「努力を要する」となっています。

- 「学校満足度(小学校、中学校)」: 実績値は昨年度と同様に90%前後の水準で推移しているが、目安値まで向上させることはできておらず「努力を要する」となっている。
- 「学力に関する指標」: いずれも目安値を下回り「努力を要する」となっている。  
この要因として、指標は児童生徒の平均正答数の分布に着目しているところ、全国的に分布の傾向が昨年度と異なっていることが影響していると考えられる。  
平均正答率で比較した場合、課題となっている中学生の「活用する力」について全国との差が縮まるなど、課題はあるもののこれまでの取組に一定の成果は表れている。
- 「体力の向上」: 実績値は目安値を大きく上回り、これまでの長野県版運動プログラムの活用や各学校における体力向上プランの取組の成果が表れている。
- 「信州型コミュニティスクールの実施割合」: 実績値は目安値を大きく上回り、地域に開かれた信頼される学校づくりの取組が広がってきている。

これらのことから、プロジェクトの取組は、成果が表れつつあるものの、目標達成に向けてはさらに努力が必要であると考えられます。

### ～プロジェクト推進に向けての課題と今後の方向性～

子どもたちが個性や能力を最大限発揮し、社会に貢献できる人材として育つためには、基礎的・基本的な知識・技能に加え、実社会で必要となる実践力やコミュニケーション力を身に付けることが必要です。

児童生徒の学力に関する指標は目安値を下回っているものの、全国学力・学習状況調査における平均正答率は、小学校では概ね全国平均を上回り、中学校では課題となっている「活用する力」について全国平均との差が縮まるなど、回復の兆しが見え始めています。さらなる学力の定着・向上に向け、授業改善のためのPDCAサイクルの再構築や授業と関連させた家庭学習モデルの普及、学力向上に向けた機運を高める「学力向上フォーラムながの」の開催など、これまでの取組を一層徹底し成果につなげていきます。

また、グローバル化する社会の中で、「信州に根ざし世界に通じる人材」を育成するため、グローバル人材の育成、ICTを活用した教育の充実、地域を理解しふるさとへの誇りや愛着を育む「信州学」の推進により、21世紀型の学力を伸ばす教育に取り組みます。

## 達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○順調:目安値以上 ○概ね順調:80%以上100%未満の進捗  
 ○努力を要する:80%未満の進捗 ○実績値なし:今年度実績値が把握できない  
 ・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値)

指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
学校満足度(小学校)	目安値	%		90.7	91	<b>91.3</b>	91.6	92.0
	実績値		90.4	90.7	90.7	<b>90.7</b>		
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する		
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、児童の実態を踏まえたきめ細かな指導や児童が分かる授業を目指した授業改善が進んできており、実績値は昨年度と同様に推移していますが、目安値よりわずかに下回っています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ喜びや学校生活の楽しさを感じられるよう、引き続き児童が認め合える学級づくりや分かる授業の実施</li> <li>・地域に開かれた学校づくりの推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
学校満足度(中学校)	目安値	%		86.5	87.3	<b>88.2</b>	89.1	90.0
	実績値		85.7	86.6	87.0	<b>87.0</b>		
	進捗区分			順調	概ね順調	努力を要する		
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、生徒の実態を踏まえたきめ細かな指導や生徒が分かる授業を目指した授業改善が進んできており、実績値は昨年度と同様に推移していますが、目安値よりわずかに下回っています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係を大切にしたい学級づくりの充実</li> <li>・学力の定着を目指し友と考える学習や個に応じた指導の充実</li> <li>・保護者・地域と連携した教育活動の一層の推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
学校満足度(高等学校)	目安値	%		76.2	77.2	<b>78.1</b>	79.1	80.0
	実績値		75.3	76.5	77.3	<b>78.3</b>		
	進捗区分			順調	順調	順調		
	進捗状況の分析	各高校において、生徒の能力、適性、興味・関心や希望進路の多様化に対応するためのカリキュラム編成、双方向型授業の推進など、魅力ある高校づくりに取り組んでおり、目標達成に向け順調に推移しています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した授業改善の取組</li> <li>・生徒の関心や進路に応じたカリキュラムの編成</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合(小学校)	目安値	%		62.4	63.1	<b>63.7</b>	64.4	65.0
	実績値		61.8	64.7	65.3	<b>62.6</b>		
	進捗区分			順調	順調	努力を要する		
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、生徒の実態を踏まえたきめ細かな指導や生徒が分かる授業を目指した授業改善を進めています。長野県の平均が全国平均をわずかに下回ったことも影響し、目安値を下回りました。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上のためのPDCAサイクルの確立</li> <li>・授業の中に話し合う活動や説明する活動を位置付けるとともに、授業のねらい達成の「見とどけ」を大切に取る取組を推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								

(様式第1号)

指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合(中学校)	目安値	%		57.2	57.9	<b>58.6</b>	59.3	60.0
	実績値		56.5	54.5	58.1	<b>55.5</b>		
	進捗区分			努力を要する	順調	<b>努力を要する</b>		
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、生徒の実態を踏まえたきめ細かな指導や生徒が分かる授業を目指した授業改善を進めていますが、長野県の平均が全国平均をわずかに下回ったことも影響し、目安値を下回りました。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上のためのPDCAサイクルの確立</li> <li>・授業の中に話し合う活動や説明する活動を位置付けるとともに、授業のねらい達成の「見とどけ」を大切に取る取組を推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合(小学校)	目安値	%		58.4	58.8	<b>59.2</b>	59.6	60.0
	実績値		58.0	59.7	59.5	<b>55.9</b>		
	進捗区分			順調	順調	<b>努力を要する</b>		
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、生徒の実態を踏まえたきめ細かな指導や生徒が分かる授業を目指した授業改善を進めていますが、長野県の平均が全国平均をわずかに上回ったものの、昨年度の値を下回ったことも影響し、目安値を下回りました。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30人規模学級の良さを生かした、児童同士の学び合いや、実験・実習、体験的な活動の充実</li> <li>・児童の科学や自然に対する興味・関心を高め、「伸びる力」をさらに伸ばす取組を推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合(中学校)	目安値	%		54.2	54.7	<b>55.1</b>	55.6	56.0
	実績値		53.8	52.3	54.7	<b>49.2</b>		
	進捗区分			努力を要する	順調	<b>努力を要する</b>		
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、生徒の実態を踏まえたきめ細かな指導や生徒が分かる授業を目指した授業改善を進めていますが、長野県の平均が全国平均をわずかに下回ったことも影響し、目安値を下回りました。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30人規模学級の良さを生かした、生徒同士の学び合いや、実験・実習、体験的な活動の充実</li> <li>・生徒の科学や自然に対する興味・関心を高め、「伸びる力」をさらに伸ばす取組の推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H22)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点の全国順位(小・中学校)	目安値	位		29	27	<b>25</b>	22	19
	実績値		31	29	27	<b>19</b>		
	進捗区分			順調	順調	<b>順調</b>		
	進捗状況の分析	小・中学校の児童生徒の体力・運動能力は、ここ数年わずかに上昇傾向にあり、H27年の実績値は目安値を大きく上回りました。特に中学生女子については、前年度より大幅に向上し、全国平均をやや下回るところまで向上しました。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県版運動プログラムの活用を推進した、幼児期から楽しみながら体を動かして遊ぶ習慣の定着</li> <li>・各校で「体力向上プラン」を見直し、教育活動全体を通じた体力向上の取組を推進</li> <li>・近年減少傾向にある中学生女子の運動部活動加入率向上に向けた環境づくり</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション1								

(様式第1号)

指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
信州型コミュニティスクールの 実施割合(小・中学校)	目安値	%		3.0	30.0	<b>50.0</b>	75.0	100.0
	実績値		0 (21.0)	13.6	36.5	<b>67.6</b>		
	進捗区分			順調	順調	<b>順調</b>		
	進捗状況の 分析	先駆的に実践活動に取り組む方々をアドバイザーとして派遣したほか、各種研修会や事例発表等の普及・啓発を重ねることにより、保護者や地域住民、学校の理解が予想以上に進み、目安値を大きく上回る実績値となっている。						
【目標設定理由】 全ての公立小・中学校で体制ができて いることを目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の底上げが必要な市町村等を重点的に支援するため、引き続きモデル市町村の経験者等をアドバイザーとして派遣</li> <li>教職員・コーディネーター・ボランティア等の役割に応じた演習形式の研修を実施</li> <li>信州型CSに対する理解を深め、導入の検討段階から支援するため、市町村教育委員会や学校を直接訪問</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション2								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
就業体験活動を実施した生徒 数の割合(高校生)	目安値	%		60.0	70.0	<b>80.0</b>	90.0	100.0
	実績値		52.2	60.4	71.7	<b>80.2</b>		
	進捗区分			順調	順調	<b>順調</b>		
	進捗状況の 分析	「ずくませ修行」就業体験事業や大学等の上級学校見学会の中で職業観や勤労観の育成に取り組んでおり、順調に推移しています。						
【目標設定理由】 全ての生徒が実施することを目標に設 定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことの意義や勤労観を養い、学ぶことの大切さを理解するとともに、将来を見通した生活ができるよう指導を充実</li> <li>先進的な学校の取組を全校と情報共有することによる就業体験活動の一層の推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション3								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
英語コミュニケーション能力水 準(英語検定3級レベル(中学 生))	目安値	%		26.0	29.0	<b>33.0</b>	36.0	40.0
	実績値		19.8	28.2	33.2	<b>33.7</b>		
	進捗区分			順調	順調	<b>順調</b>		
	進捗状況の 分析	英語への興味、関心が高まったことで英語検定受検者が増え、実績値は順調に推移していますが、まとまった内容について話したり書いたりすることに課題が見られます。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校で生徒の実態に応じた独自のCan-Doリスト形式での学習達成目標を設定し、生徒の理解と表現の能力を伸ばす授業の推進</li> <li>言語活動の充実を意識した授業を通じ、コミュニケーション能力を育成</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション4								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
英語コミュニケーション能力水 準(英語検定準2級レベル(高 校生))	目安値	%		33.0	35.0	<b>36.0</b>	38.0	40.0
	実績値		30	34.4	35.0	<b>34.4</b>		
	進捗区分			順調	順調	<b>努力を要する</b>		
	進捗状況の 分析	各高等学校で生徒が英語を使う活動を多く取り入れるなど、授業改善に努め、英語への興味、関心が高まったことで、英語検定受検者が増えたものの、合格者数が十分に伸びなかったこともあり、目安値には達しませんでした。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語担当教員の研修を更に充実させ、生徒が授業で英語を使う機会を増やす等の授業改善の取組を推進</li> </ul>						
【関連アクション】 アクション4								

## アクション 1

### (学力・体力の向上と多様な学習機会の提供)

子どもたちの学力や体力を向上させるとともに、一人ひとりの個性に合った多様な学習機会を提供します。

#### 【アクションの進捗状況】

「未来を拓く学力」の向上のため、30人規模学級編制を活用したきめ細かな指導や学力向上のためのPDCAサイクルづくり、全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに授業改善を図るためのリーフレットの作成・配布等に取り組みました。

また、「長野県版運動プログラム」普及のため、教職員や地域の指導者を対象とした出前講座や児童生徒を対象とした実技講習会を実施しました。

さらに、障がいのある児童生徒が自立や社会参加に向けてその能力や可能性を最大限に伸ばすことができるよう、適切な教育の場と教育内容の充実を図りました。

#### 主な成果

### ●「未来を拓く学力」向上の仕組みを構築

PDCAサイクルにより学力実態を把握し、確実に定着させる仕組みを構築

- ・「授業がよく分かる」と答える児童生徒の割合  
H26年度：75.0% ⇒ H27年度：75.6%
- ・学習したことを実生活の場面に活用する力が全国平均より高い児童生徒の割合  
小学校 H26年：全国57.7% 県59.5% ⇒ H27年：全国54.3% 県55.9%  
中学校 H26年：全国58.5% 県54.7% ⇒ H27年：全国51.0% 県49.2%

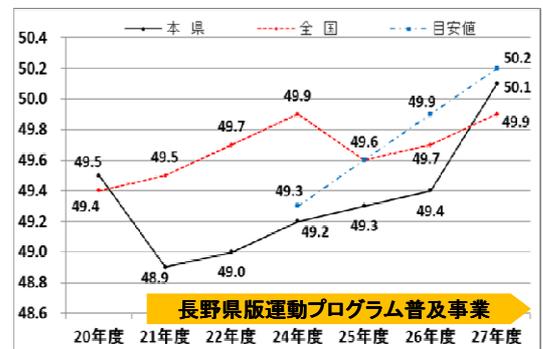


中学生の学び合い

### ●「長野県版運動プログラム」を実施

- ・H21年度から開発・普及を進めてきた長野県版運動プログラムは、H27年度の幼児期版の開発により、幼児期から中学生期までの一貫したプログラムが完成
- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における体力合計点は、本プログラムを導入したH21年度から着実に上昇

体力合計点の推移



### ●特別支援教育を充実

- ・自立活動担当教員を増員：H26年度 20人 ⇒ H27年度 20人（計40人）  
※H29年度までに80人
- ・自立活動教育を充実させる専門職員を配置：20人（H26から継続）
- ・LD等通級指導教室を増設：H25年度 13教室 ⇒ H26年度 18教室 ⇒ H27年度 28教室

### ●信州教育に多様な学びの場が誕生

- ・総合技術高校の開校（多面的な職業人を育成!!）  
H27年4月 須坂創成高等学校、佐久平総合技術高等学校 開校
- ・オールラウンドな高校の開校（すべての生徒の多様な個性や能力を伸ばす!!）  
H28年4月 大町岳陽高等学校 開校
- ・地方創生のモデルとなる新しい高校づくり  
（観光をはじめとする様々な分野で主体的に活躍する人材を育成!!）  
H28年4月 白馬高等学校国際観光科 開科

## ● 少子・人口減少社会に対応した活力ある学校づくりを推進

統合を契機に活力ある学校づくりに取り組む小・中学校（11校）に対して、新たな学校づくりの中核となる教員を配置

【統合により新たにスタートした学校】

H27年4月 4校（佐久穂小、松川中央小、筑北小、佐久穂中）

H28年4月 5校（信更小、戸狩小、岡谷田中小、神明小、木曾町中）

### アクション 2

#### （地域に開かれた信頼される学校づくり）

コミュニティスクールなど、家庭や地域が小・中学校を支える仕組みを構築し、地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます。

#### 【アクションの進捗状況】

学校運営への参画、学校支援、学校関係者評価を一体的に実施する「信州型コミュニティスクール」の普及を一層促進するための取組を実施し、県民との協働による開かれた学校づくりが進みました。

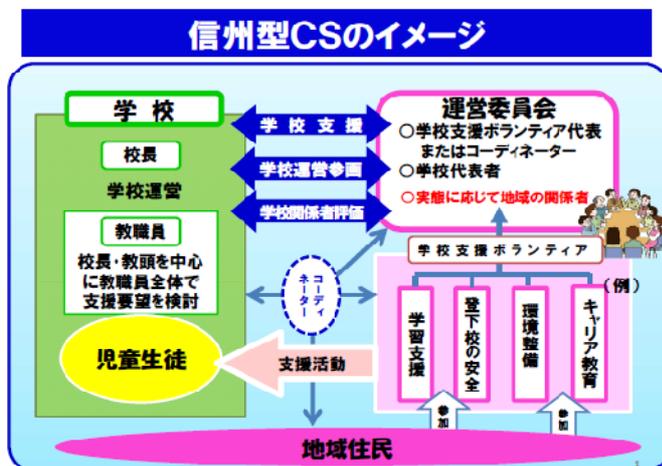
また、「長野県いじめ防止対策推進条例」の制定に伴い、児童生徒による主体的・自主的ないじめ防止を推進するとともに、児童生徒の悩みに対応する相談支援体制を充実しました。

さらに、「信州教育の信頼回復に向けた行動計画」に沿った取組を着実に推進しました。

#### 主な成果

## ● 信州型コミュニティスクール(CS)の取組を普及

「信州型コミュニティスクール(CS)」の普及を一層促進するため、信州型CSアドバイザーの派遣による信州型CSの立ち上げ及び取組充実への支援やコーディネーター等の研修、市町村・学校への訪問による普及啓発活動等を実施



#### 信州型コミュニティスクールに取り組む 県内の公立小・中学校

H26年度

202校

(36.5%)

[目標 30.0%]

H27年度

371校

(67.6%)

[目標 50.0%]

## ● 児童生徒及びその保護者への相談支援体制を充実

不登校、いじめ等児童生徒の悩みに対応するため、学校生活相談センターを設置（H27年4月）するとともに、公立学校へのスクールカウンセラーの派遣時間数を拡充

・学校生活相談センター

H27年度 相談件数707件、延べ相談回数905件に対応

・スクールカウンセラー

公立小・中学校の配置人数 89人（H26年度） → 95人（H27年度）

県立高等学校の相談時間 2,424時間（H26年度） → 5,706時間（H27年度）

## ●児童生徒による主体的・自主的ないじめ防止を推進

長野県いじめ防止対策推進条例施行にともない、「いじめ防止子どもサミットNAGANO」(H27年12月)や「高校生ICTカンファレンス長野大会」(H27年10月)を開催し、児童生徒による主体的かつ自主的ないじめ防止を推進



## ●信州教育の信頼回復に向けた取組を着実に推進

「信州教育の信頼回復に向けた行動計画」(H25年7月策定)に沿った施策を着実に推進

- ・すべての県立学校と大部分の小中学校(73市町村)で匿名性を担保した授業評価・学校評価を実施
- ・地域に根ざした教育の実践を目指し、教職員の人事異動方針を改定 等

### アクション 3

#### (農林業体験など体験活動の推進)

子どもたちの社会性や自主性を育むため、小・中・高等学校で農林業体験、福祉体験、就業体験など様々な体験活動を推進します。

#### 【アクションの進捗状況】

地域を理解しふるさとへの誇りと愛着を育む「信州学」を県立高校で推進するため、研究委員会によるテキスト作成やモデル校における実践研究に取り組みました。

また、H23年度に策定した「長野県キャリア教育ガイドライン」に基づき、家庭・地域・産業界と連携しながら、幼保・小・中・高の発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進しました。県立高校においては、「ずく出せ修行」就業体験事業などを通じ、生徒の職業観・勤労観の育成に取り組みました。

さらに、異年齢の児童生徒たちが共同して生活しながら通学する通学合宿について、実施に必要な知識やスキルを持つ「通学合宿リーダー」を養成するためのセミナーを開催しました。

#### 主な成果

## ●「信州学」を実施

- ・H28年度からの実施準備として、「信州学」研究委員会によるテキストを作成
- ・長野西高校、蓼科高校、塩尻志学館高校をモデル校に指定し、地域の特色を生かした「信州学」の実践

【モデル校における取組内容】

長野西	善光寺の学習・案内等(歴史・文化・観光)
蓼科	蓼科学(歴史・文化)
塩尻志学館	ワイン醸造(産業)

## ●高校生の就業観・職業観を育成

就業体験活動を実施した生徒数の割合(高校生)

H26年度: 71.7% ⇒ H27年度: 80.2% (目標値: 80%)



就業体験活動での農園実習

## ●通学合宿リーダーを養成

通学合宿の実施に必要な知識やスキルを持つ「通学合宿リーダー」を養成するためのセミナーを開催

- ・養成した通学合宿リーダー  
H27年度 10名
- ・通学合宿実施回数  
H25年度 14市町村で延べ23回（事業初年度）  
⇒H27年度 26市町村で延べ46回



通学合宿リーダー養成セミナー

### アクション 4

#### (情報活用能力、英語コミュニケーション能力の向上)

時代の変化に対応できる人材を育成するため、子どもたちの情報活用能力や英語コミュニケーション能力の向上に取り組みます。

#### 【アクションの進捗状況】

スーパーグローバルハイスクール指定校の運営や高校生の発信力育成講座など、グローバル時代に対応した「信州に根ざし世界に通じる人材」の育成に向けた取組を実施しました。

また、ICTを効果的に活用して生徒の学力や情報活用能力の向上を図るため、ICT活用に関する教員研修を充実させるとともに、県立高校における通信基盤の整備や情報端末機器を活用した新たな学習モデルの実践研究、特別支援学校へのタブレットPCの配置を行いました。

#### 主な成果

## ●スーパーグローバルハイスクールの指定により 人材育成を推進

長野高等学校(H26年)と上田高等学校(H27年)が、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る 文部科学省事業「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定



上田高校発表会(SGH)

## ●高校生の発信力育成プログラムを実施

フィリピンへの県独自の海外研修プログラム「未来塾ながの in the Philippines」(参加生徒数:27名)や、JICA青年海外協力隊駒ヶ根訓練所において青年海外協力隊の訓練等を実践的に体験する「グローバルマインド育成講座」を新たに実施

## ●情報端末機器を活用した教育を推進

- ・全県立学校をデータセンターに接続し、高速でセキュリティの向上したネットワーク環境を整備
- ・県立高校にモデル校(3校)において、電子黒板やタブレット端末等を活用したアクティブ・ラーニングの推進など、21世紀にふさわしい新たな学習モデルの実践研究を実施
- ・遠隔教育システムを導入し、キャンパス間で遠隔授業を実施(H27年度1校)
- ・特別支援学校各校にタブレット端末を配置し、障がいの状況に応じた学習に活用  
配置端末数(学校数)  
H25年度:131台(16校) ⇒ H26年度:204台(全18校) ⇒ H27:306台(全18校)

アクション  
5

(高等教育全体の振興)

地域社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するため、県内の高等教育全体を振興するとともに、県立4年制大学を設置します。

【アクションの進捗状況】

インターンシップや地域課題解決の取組等を通じた人材育成を図るため「信州産学官ひとづくりコンソーシアム」を開設するとともに、県内大学等と地域が連携して行う地域課題解決の取組の支援や県内大学で学ぶ魅力の発信を行いました。

また、H30年4月の開学を目指す長野県立大学（仮称）の設立に向けて、県立大学設立委員会及び各専門部会において、各学科のカリキュラム編成や海外プログラムの構築、入学者選抜方法などの具体的な検討を進めるとともに、大学説明会の開催や三輪キャンパス建設工事の着工を行いました。

主な成果

●県内高等教育を振興

- ・産学官協働で長野県の将来を担う人材育成に取り組むため、「信州産学官ひとづくりコンソーシアム」を開設（H27年7月）
- ・県内大学等と地域が連携して行う地域課題解決の取組を支援（12件）
- ・県内大学で学ぶ魅力を県内外に向けて発信

●長野県立大学（仮称）の設置準備を推進

- ・新県立大学の理念や教育内容等について高校生等の理解を深めるため、大学説明会を開催（H27年11・12月）
- ・三輪キャンパス建設工事の着工（H28年3月）



長野県立大学（仮称）イメージ

●県内大学進学のための入学金等給付事業を実施

意欲や能力が高いにもかかわらず、経済的な理由で大学・短期大学への進学が困難な生徒を支援するため、入学一時金相当の奨学金を給付（H27年度：29人に給付）

アクション  
6

(生涯にわたる学びの環境整備)

生涯にわたる学びや学び直しができる環境整備を進めます。

【アクションの進捗状況】

生涯学習推進センターにおいて、長野県の強みである公民館活動の活性化に向け、指導者養成、県政課題への対応に特化した内容となるよう講座編成を見直し、市町村公民館職員、社会教育関係者等をはじめとする方々のスキルアップの場を提供しました。

また、県立長野図書館において、地方創生の新たな時代に対応した新しい図書館づくりを推進するため、H27年4月に登用した外部館長のもと、県立図書館が公共図書館の中核となり、専門性・ネットワーク力を強化するための取り組みに着手しました。

主な成果

### ●生涯学習の指導者を養成

「県民協働による事業改善」の点検を踏まえ、H27年度に生涯学習推進センターのあり方検討を行い、当センターの原点「生涯学習によるまちづくり」に向けて、日本一の公民館活動を支える機関としての更なる機能強化に着手



生涯学習推進センターの研修講座

#### 長野県生涯学習推進センター 研修講座受講者数

H27年度

**実績 1,689人**

[目標 1,400人]

### ●県立長野図書館改革に着手

- ・ 新たな時代にふさわしい図書館のあり方を議論・リードする場として「これからのとしょかんゼミin信州」を開催
- ・ 県内公共図書館とのネットワークを強化し、支援・連携を推進するため「信州大学附属図書館と県立長野図書館との連携に関する覚書」を締結  
公式Facebook「山の見える図書館—信州のまち・ひと・としょかん—」を開設
- ・ 県民の課題解決に向けた支援充実のため「起業・経営無料相談会」を（一社）長野県経営支援機構と共同実施



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ